

県民の暮らしと安全を守る姿勢が随所に 新しい息吹が感じられる 米山知事の2017年度県予算

—「現在と未来への6つの責任(公約)の実現に向け、米山県政が始動—

62年ぶりに全会一致で成立した新年度県予算は、米山知事が選挙で掲げた6つの責任(公約)に基づき、県民の暮らしと安全を守る姿勢が随所にみられます。知事の政治姿勢が鮮明に出され、新しい息吹を感じさせる予算案になっています。

①「安全への責任」

◇原発事故に関する3つの検証を実施

「福島第一原発事故の原因の検証」「原発事故が健康と生活に及ぼす影響の検証」「万一原発事故が起こった場合の安全な避難方法の検証」を徹底的に実施するとし、「県技術委員会」を継続し、健康への影響を調査する「健康委員会」および「避難委員会」を設置するなど、徹底した科学的な検証なしに柏崎刈羽原発の再稼働はさせないという姿勢が示されています。

◇防災・減災対策や老朽化対策を推進し、災害に強い地域づくりの推進

県民の生命と財産を守るインフラ施設の防災・減災対策や老朽化対策を推進することとしています。

②「命と暮らしへの責任」

この保育園の子どもたちが、健康やかに成長することを祈ってやみません。

そのためには、地元地域の入園児童の状況に合わせ、適正な規模を維持することでも大切なことです。

◇県民の健康寿命の延伸や魅力ある勤務環境づくりを通じた医師等の確保の取組

県民の健康と命を守る具体的な施策が打ち出されており、医師としての米山カラーが出されています。

◇子育てしやすい環境の整備に向けた取組

安心して子育てできる環境整備として、子供医療費補助や待機児童解消、子供の居場所づくり、子育て支援、一人親世帯支援などにも配慮されています。

③「教育への責任」

◇いじめの解消や未然防止等に向けた体制強化の取組

緊急の課題であるいじめ問題への対応を強化するとし、相談しやすい環境づくり、いじめの未然防止、早期発見・解消に向けた態勢を強めています。

もともと、就任して間もないだけに、継続的な事業や大枠の部門ごとの予算額と政策はあまり変わっていません。

6つの責任ごとの主な事業を紹介します。

④「雇用への責任」

◇新潟版給付型奨学金の創設に向けた検討
創設に向けて検討を開始するとともに、5億円の基金積立を盛り込んでいきます。

⑤「食と農を守る責任」

◇自然エネルギーを活かした新潟版グリーンニューデール政策の推進
地域特性を生かした地産地消型エネルギーシステムの構築や新エネルギー分野での研究開発支援等により、再生可能エネルギー関連産業の振興を図るとしています。

◇多様な地域資源を活かした魅力ある観光地づくり

⑥「住民参加への責任」

◇徹底した情報公開と対話型県政を推進
県内各地で、直接県民と対話し、意見を聞く場として、タウンミーティングを定期的に開催

の推進
◇2018年以降の米政策に的確に対応する取組
◇県産農産物のブランド化・ブランドの育成

◇徹底した情報公開と対話型県政を推進
県内各地で、直接県民と対話し、意見を聞く場として、タウンミーティングを定期的に開催

以上が米山知事の初めての県予算での主な事業です。今後、詳細な検討は必要ですが、事業名一つひとつに米山知事が県民に約束した県民の暮らしと安全を守る姿勢が見られ、6つの責任(公約)ごとに打ち出された事業に新しい息吹が感じられます。

よしかわ保育園 竣工開園



8日、吉川区内の3園を統合した「よしかわ保育園」の竣工式・開園式が行われました。

この「よしかわ保育園」は、市立吉川中央保育園、市立旭保育園、私立吉川保育園の3園のいずれもが、入園児童数の減少に伴って集団保育や園行事(運動会、発表会等)の開催が年々難しくなってきたことにあわせ、各施設の老朽化が進み大規模な修繕や建替えが必要となってきたことから、公立・私立の枠を超えた統合について検討を重ね、このほど社会福祉法人が運営する新保育園として再出発することになりました。

竣工式・開園式に出席した橋爪法一議員によると、園舎は木材がたっぷり使われていて、気持ちのいい保育園であるとのこと。

保育園は、ただあれば良いというものではありません。保育や子育てに関する保護者のニーズに応え得る良好な保育環境を維持することが必要です。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 542 2017年4月16日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)